

## 2023年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

HRS鈴鹿 Motoクラスアドバンスコースの生徒5名がシリーズ初戦に参戦!!  
フルコースでの実戦を経験することで、さらなるスキルアップを目指す

4月8日(土) 公式予選 10:10~10:30 ©天候・路面:Cloudy/Dry

#21 岡田陽大 5位 / 2'24.695 #8 竹本倫太郎 8位 / 2'25.396  
#67 中谷健心 10位 / 2'25.691 #12 豊田哲慎 11位 / 2'25.788  
#11 遠藤翔類 18位 / 2'28.260

HRS鈴鹿 Motoクラスアドバンスコースの2023シーズンがいよいよスタートした。鈴鹿サンデーロードレース第1戦-JP3クラスには、5名の生徒を含め、26台がエントリー。

予選が行われた8日の天候は曇り。路面はドライながら、風が強くて気温もやや低めというコンディションの中、20分間の予選セッションが始まった。生徒5名らは先を競うようにコースイン。#21岡田陽大は集団の先頭に位置して周回し、4周目に2'24.695を記録する。しかしタイムはそれ以上伸びず、2列目5番手という結果となった。今年からアドバンスコースにステップアップした#8竹本倫太郎は2'25.396で8番手、同じくアドバンスコース1年目の#67中谷健心が2'25.691で10番手で続く。

#12豊田哲慎は集団内での位置取りをミスしてタイムを伸ばせず、中谷に次ぐ11番手。唯一のジュニアライダー#11遠藤翔類は2'28.260で18番グリッドを獲得している。

4月9日(日) 決勝レース(フルコース10周) ©天候・路面:Fine/Dry

#67 中谷健心 総合2位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位  
#12 豊田哲慎 総合3位/ナショナル2位/NSFチャレンジ2位  
#8 竹本倫太郎 総合10位/ナショナル5位/NSFチャレンジ5位  
#11 遠藤翔類 総合13位/ナショナル8位/NSFチャレンジ7位  
#21 岡田陽大 リタイヤ

強風が吹きつけた予選日とは打って変わり、春らしい陽気のなか、フルコース10周の決勝レースがスタートする。4列目の中谷と豊田が抜群のクラッチミートで一気に順位を上げ、竹本、遠藤もシグナルにしっかりとタイミングを合わせ、ポジションをキープしたまま1コーナーへと飛び込んでいった。だが5番手グリッドの岡田は、スタート直後に発生したマシントラブルにより、1周目でリタイヤとなってしまった。

中谷、豊田はポジションを入れ替えながら先頭集団にくらいついてゆく。7周目、4番手を走行していた中谷は1コーナーでコースアウトし、豊田が4番手に浮上する。中谷は6番手にまでポジションを落とすものの、その後猛然と追い上げて豊田をパス。さらに9周目の日立アステモシケインで2番手にまで浮上し、トップを走る松田基成選手の背後にぴたりとつける。

中谷は最終ラップの130R立ち上がりから日立アステモシケインの進入で松田選手に仕掛けるが、イン側のラインをしっかりとブロックされてしまい、0.060秒差の総合2位でチェッカーを受けた。総合3位には豊田が続き、この結果、HRS-Moto Advance生がナショナルクラスで1-2フィニッシュを果たした。竹本は集団に飲まれて10位となったが、決勝中に自己ベストラップを記録するなど、次戦以降の走りに期待が持てる結果を残した。やはり決勝中に自己ベストタイムを更新した遠藤も、予選順位を大幅に上回る13位でゴールしている。



2023年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

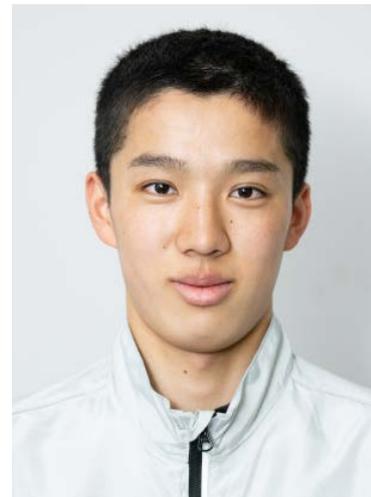
**ナショナルJ-GP3クラス: 予選10位 決勝総合2位 (ナショナル1位/NSF  
チャレンジ1位)  
中谷健心(なかにけんしん) 15歳**

『予選では位置取りが悪かったので、前に詰まってしまうと、タイムを思うように伸ばせませんでした。コーナーの進入時やS字の切り返しのスピードなど、他にも反省すべき点は多かったです。決勝では、事前に予選の動画を見て自分の走りを見直し、気持ちを切り替えて臨みました。得意のスタートが決まり、他のライダーのペースにもしっかりとついていくことができ、ベストタイムも更新できました。レース中も冷静さを保ち、パッシングポイントなど、プランを考えて実行しています。コースアウトの原因は、左側にいたライダーに先行されないように頑張りが過ぎたのが原因です。まだまだ経験が足りていませんでした。ナショナルクラスでは1位ですけど、総合1位を狙っていたので、総合2位という結果は悔しいです。最終ラップの日立アステモシケインは、今思えば普通のレコードラインを選んで立ち上がり重視にするべきでしたが、レース中はそこまでは考えられませんでした』



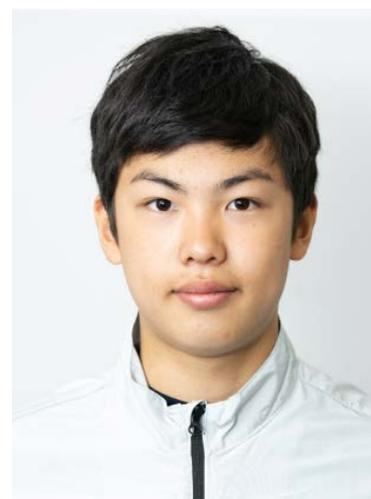
**ナショナルJ-GP3クラス: 予選11位 決勝総合3位 (ナショナル2位/NSF  
チャレンジ2位)  
豊田哲慎(とよだてっしん) 16歳**

『予選はポジション取りをミスしてクリアラップがとれず、ベストの1.8秒落ちのタイムしか出せませんでした。単独でタイムを出せる自信はあっただけに、この結果は悔しかったです。決勝は11番グリッドからのスタートでしたが、とにかく序盤で前に出るということを意識し、そのとおりのレースができたと思います。これまではS字やヘアピンに苦手意識がありましたが、今回のレースではそんな苦手なポイントにも自信が持てる走りができたと思います。予選の位置からはかなりポジションアップできたとは思いますが、トップの2台に先行を許してしまったので、やはり予選でもっと前の位置にいないといけませんね』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選8位 決勝総合10位 (ナショナル5位/NSF  
チャレンジ5位)  
竹本倫太郎(たけもとりんたろう) 14歳**

『予選では前を走るライダーにしっかりとついていき、いいタイムを出すことができました。NSF250Rは(これまで乗っていたCBR250Rと比べて)1速のギアレシオが長いので、スタートに不安がありましたが、決勝では上手くスタートを切ることができました。ですが直後の1、2コーナー、そしてS字でのポジションが悪く、集団の後方の位置で走ることになってしまいました。自己ベストタイムは更新できましたが、フロントに荷重がかかりすぎてマシンの挙動が大きく、思うようにペースを上げられませんでした。今回のレースで、レース中の位置取りやレース運びということをより理解できました。そして先頭集団に遅れないことも大事です。また、単独走行でタイムを上げていくことも意識しないといけません』

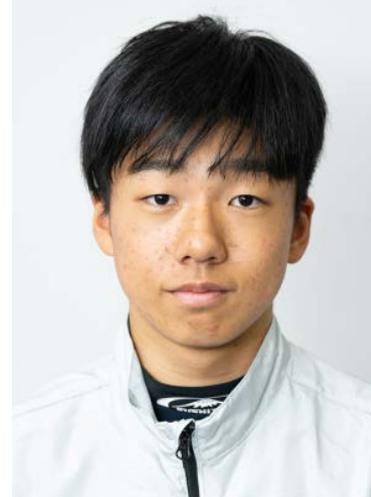


2023年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

**ナショナルJ-GP3クラス: 予選18位 決勝総合13位 (ナショナル8位/NSF  
チャレンジ7位)**

**遠藤翔類(えんどうかける) 14歳**

『今回は鈴鹿での初めてのレースでしたが、メンタルコントロールが出来ず、焦りが出てしまいました。予選では130Rと日立アステモシケインでコースアウトして貴重なアタックラップの機会を逃してしまいました。決勝のスタートはイメージしていた通りにクラッチを繋げられました。そのまま前についていきかけたんですが、まだまだ実力が足りずに、ところどころでミスをしてしまいました。ラインも定まらず、スピードのコントロールがまだまだ上手いきません。アドバンスの同期生にも大きな差をつけられてしまったので、すごく悔しいです。ブレーキングポイントやアクセルを開けるポイントが定まっておらず、感覚を頼りに走っているので、今後はそういった部分をなくしていきたいです』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選5位 決勝リタイア**

**岡田陽大(おかだひなた) 15歳**

『予選は強い風が吹いていましたが、風向きが向かい風から追い風に変化して、その変化に上手く対応することができませんでした。自分の理想的なラインばかりを意識しすぎて、スピード自体が全然足りていませんでした。マシンを速く走らせるために何が大切なのかということについて、もっと理解を深めないといけません。金曜は雨でしたが、その日のフィーリングは決して悪くはありませんでしたが、やはりスピードは足りていませんでした。レースへの取り組み方にまだまだ課題が残されていると考えています』



2023年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

## 上田昇 Instructor

『今年のHRS鈴鹿 Motoクラス アドバンスコースは、2年生が2名、1年生が3名という体制で、1年生は今回が初のレースとなりました。最上位は1年生の中谷で、他の1年生も決勝中に自己ベストを大幅に更新しています。サンデーのトップグループのライダーと一緒に走ることで、彼らにもいろいろと見えてくるものがあったと思いますし、自己ベストを更新したという結果も素晴らしいですね。今回のタイムがどんな操作によって出せたのかということや次の走行までにしっかりと振り返り、そのタイムを自分のものにしなければいけません。1年生は全員が自己ベストを更新できましたが、当然それぞれが自分の課題に直面しているので、われわれ講師陣も彼らの課題に対してしっかりとフォローしていきます。対して2年目の2名には厳しい言葉を与えなければいけません。豊田が表彰台に登りましたが、タイムは自己ベストからかなり離れています。もちろん豊田本人も自分自身が足踏みしているということは十分理解はしていて、その対策に一生懸命取り組んでいますが、まだ結果には表れていません。実際の走りやライディングに関する知識は確実に向上しているので、今はまだばらばらの状態のパズルのピースが組み合わさることで、必ずいい結果に繋がると思います。岡田は今回レースをする前に終わってしまいました。その原因について、自分自身でもしっかりと追究しないといけません。予選のタイムも自己ベストには遠く及んでいませんが、データロガーや車載カメラで見る限りは、豊田同様、昨年に比べてその実力は確実に向上しています。自分に足りないところをどのように補っていくのかということや、いま一度彼らには考え直してもらいたいですね』

